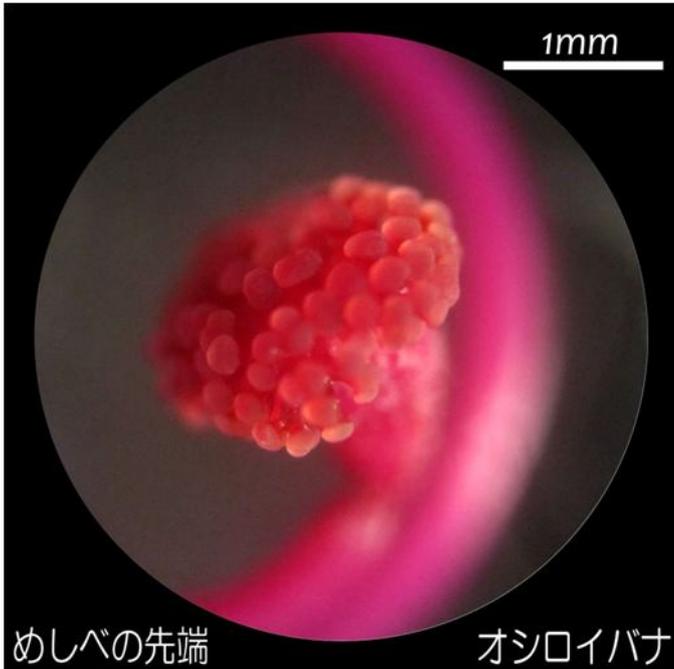


「オシロイバナの研究(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

オシロイバナに限らず、顕花植物の柱頭(めしべの先端)は、受粉を確実にする工夫がある。多くは、粘り気を持たせ、花粉が付きやすくなっているものが多いようだ。オシロイバナもそうである。

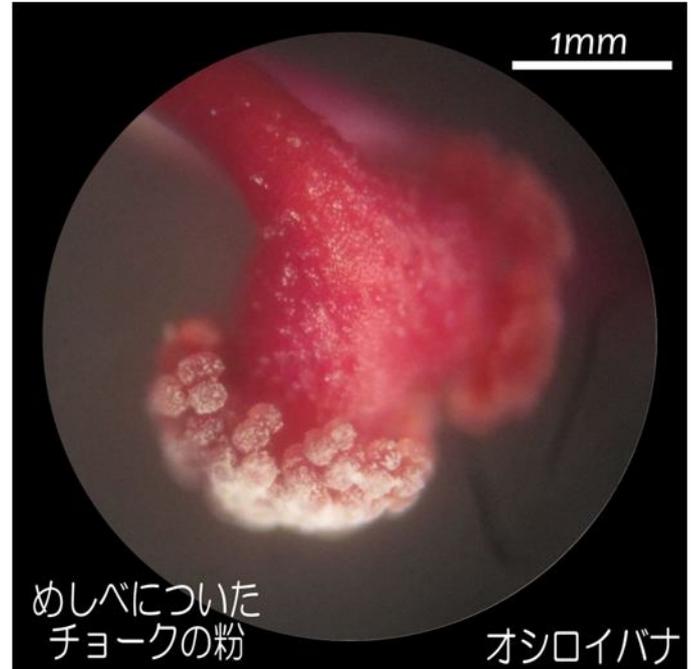


「オシロイバナの柱頭」まるで、赤い花粉がたくさんついているように見えるが、これは花粉ではなく、めしべの一部である。見た目は「グミ」のような質感である。大きさが1mmもあるので、指先で触れると、くっつくような感触がある。



実際に粘り気がある様子を調べるには、チョークの粉をつけてみるとわかる。これは一人の子どもが重い

ついた方法で、その後、クラス全体に広まった。つけたあとに、息で吹き飛ばしても、落ちない。粉がついた様子を、顕微鏡で観察すれば、より理解が深まる。



この実験も、まずは、花卉の中から、花柱についたままの柱頭を取り出せなければできない。試行錯誤が必要だ。子どもたちは、何度も何度も挑戦していた。ノートにも、その研究成果が残っていた。

